

農福連携における障がい者の支援のための 足元データも考慮した ネックバンド機器の開発

八十住 捨輝

富山県立大学 情報システム工学科

u020042@st.pu-toyama.ac.jp

2023年6月14日

1. はじめに

2/4

本研究の背景

- 高齢者の筋力低下
- 精神疾患者の不安感
- アンビエント社会

本研究の目的

- 高齢者や障がい者の方々が安心して歩くことができる環境づくり
- 障がい者の労働支援
- 安価なセンサで必要なセンシング
- ウェアラブル装置からのデータをもとに、ストレス測定
- 装置の小型化

2. 進捗報告

足元データ

- 2人分（23.5cm, 25.5cm）の装置の作成
- server のプログラムの作成
- raspberry pi に置く client のプログラムの作成
- ロール, ピッチ, ヨー角の算出
- 日本海俱楽部での障がい者 2名, 健常者 1名のデータ収集

ネックバンド機器

- 2人分の装置の作成
- server のプログラムの作成
- raspberry pi に置く client, camera, voice のプログラムの作成
- ストレス値の測定のプログラムの作成
- 日本海俱楽部での障がい者 3名, 健常者 1名のデータ収集

3. おわりに

4/4

まとめ

プログラム、装置の作成と現地での実験を行った。

今後

各プログラムの完成を目指す。行動識別で使うカメラと音声の方があまり進んでいないため早急に対処する。

最終的に

最終的には足元と心拍のデータ、カメラデータ、音声データを取得し、ストレスコーピングを行い、障がい者、高齢者を支援する機器の開発を行う。